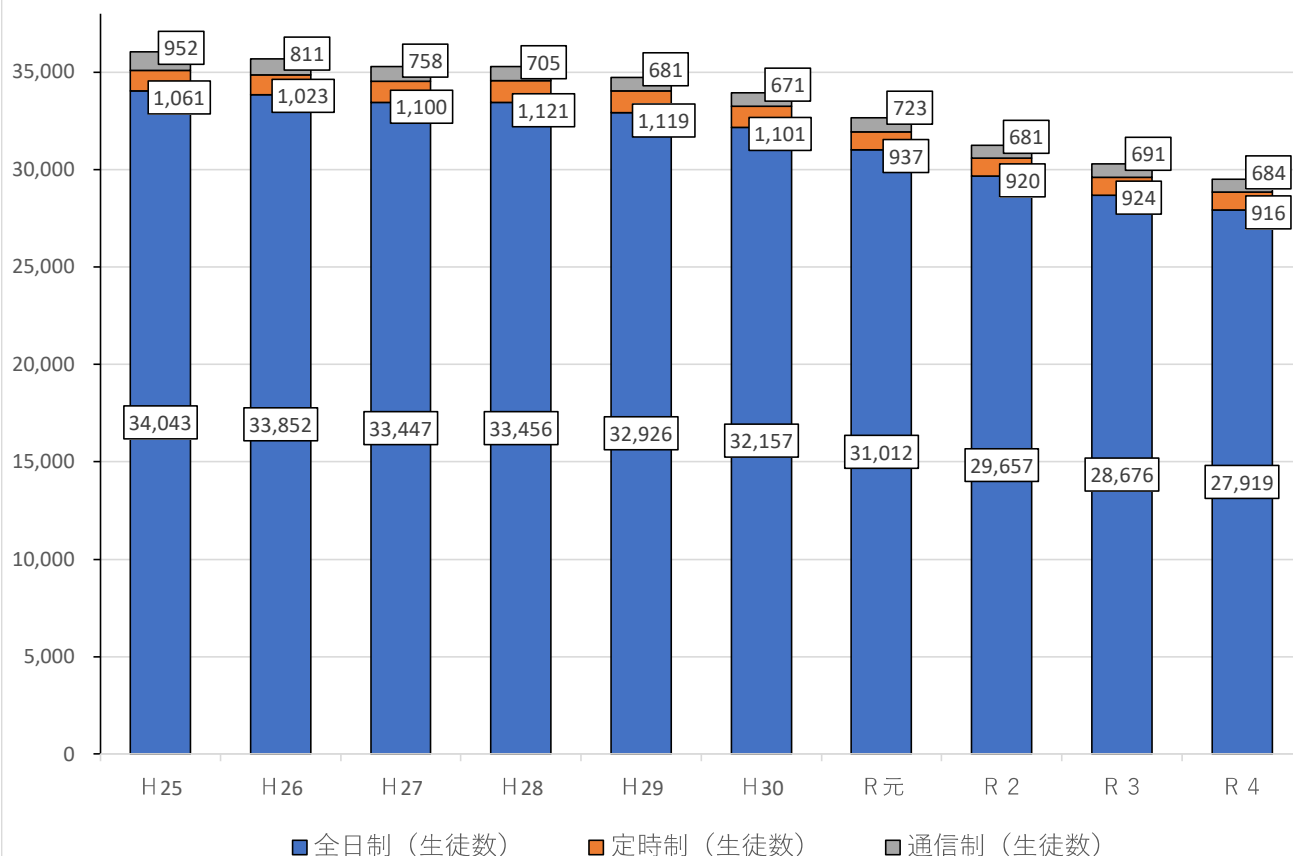


# 府立高校における課程別生徒数の状況

資料 1



生徒数と全体比 及び増減率 (H25基準)		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4
全日制 課程	生徒数(人)	34,043	33,852	33,447	33,456	32,926	32,157	31,012	29,657	28,676	27,919
	全体比	94.4%	94.9%	94.7%	94.8%	94.8%	94.8%	94.9%	94.9%	94.7%	94.6%
	増減率	100.0%	99.4%	98.2%	98.3%	96.7%	94.5%	91.1%	87.1%	84.2%	82.0%
定時制 課程	生徒数(人)	1,061	1,023	1,100	1,121	1,119	1,101	937	920	924	916
	全体比	2.9%	2.9%	3.1%	3.2%	3.2%	3.2%	2.9%	2.9%	3.1%	3.1%
	増減率	100.0%	96.4%	103.7%	105.7%	105.5%	103.8%	88.3%	86.7%	87.1%	86.3%
通信制 課程	生徒数(人)	952	811	758	705	681	671	723	681	691	684
	全体比	2.6%	2.3%	2.1%	2.0%	2.0%	2.0%	2.2%	2.2%	2.3%	2.3%
	増減率	100.0%	85.2%	79.6%	74.1%	71.5%	70.5%	75.9%	71.5%	72.6%	71.8%
生徒数全体(人)		36,056	35,686	35,305	35,282	34,726	33,929	32,672	31,258	30,291	29,519

【出典】京都市教育委員会「学校基本数調査」 ※R4は暫定値

# 府内地域別 定時制・通信制課程設置高校（公立・私立）

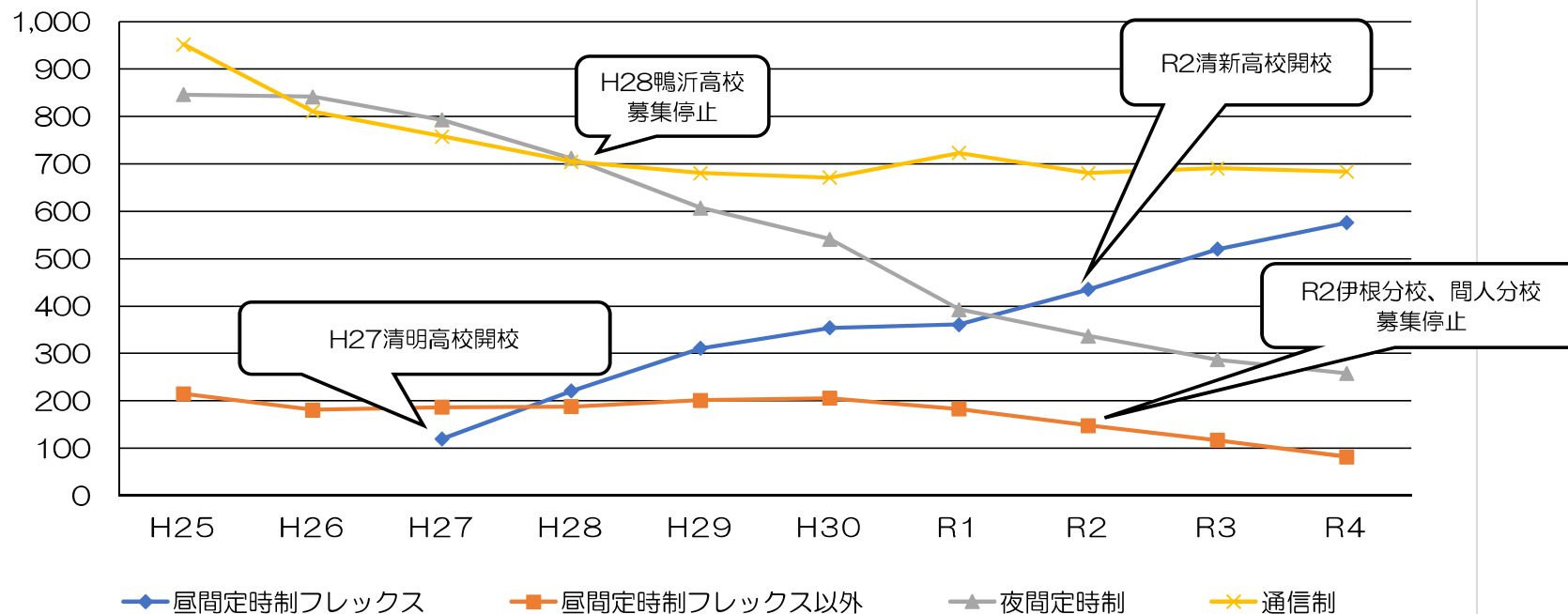
資料 2

地域	府立高校								京都市立高校				私立高校				
	市区町村	学校名	分校名	定時制			通信制		学校名	定時制			学校名	通信制			
				昼間・夜間	学科名	R5募集定員	学科名	R5募集定員		昼間・夜間	学科名	R5募集定員		学科名	R5募集定員		
京都市・乙訓	北区	清 明		昼間 (単位制)	普 通	120											
	上京区												京都美山	普 通	150		
	左京区												京都芸術 大学附属	普 通	—		
	中京区	朱 雀		夜間 (単位制)	普 通	90	普 通	160									
	下京区												京都つづば開成	普 通	—		
	南区	鳥 羽		夜間 (単位制)	普 通	90											
	西京区												京都成章	普 通	30		
	伏見区	桃 山		夜間 (単位制)	普 通	60			京都奏和	昼間・夜間 (単位制)	普 通	80					
				夜間 (単位制)	商 業	30											
向日市												京都西山	普 通	100			
山城	精華町											京都廣学館	普 通	120			
口丹	南丹市	北桑田	美 山	昼間	農業 家政	40											
中丹	綾部市	綾部	東	夜間	普 通	40											
	福知山市	福知山	三 和	昼間	農業 家政	40							京都共栄学園	普 通	100		
	舞鶴市	東舞鶴	浮 島	夜間	普 通	40											
		西舞鶴						普 通	120								
丹後	京丹後市	清 新		昼間 (単位制)	総合 学科	90											

※令和5年度入学者選抜実施校を掲載

# 府立高校（定時制・通信制）における生徒数推移

資料 3



(単位：人)

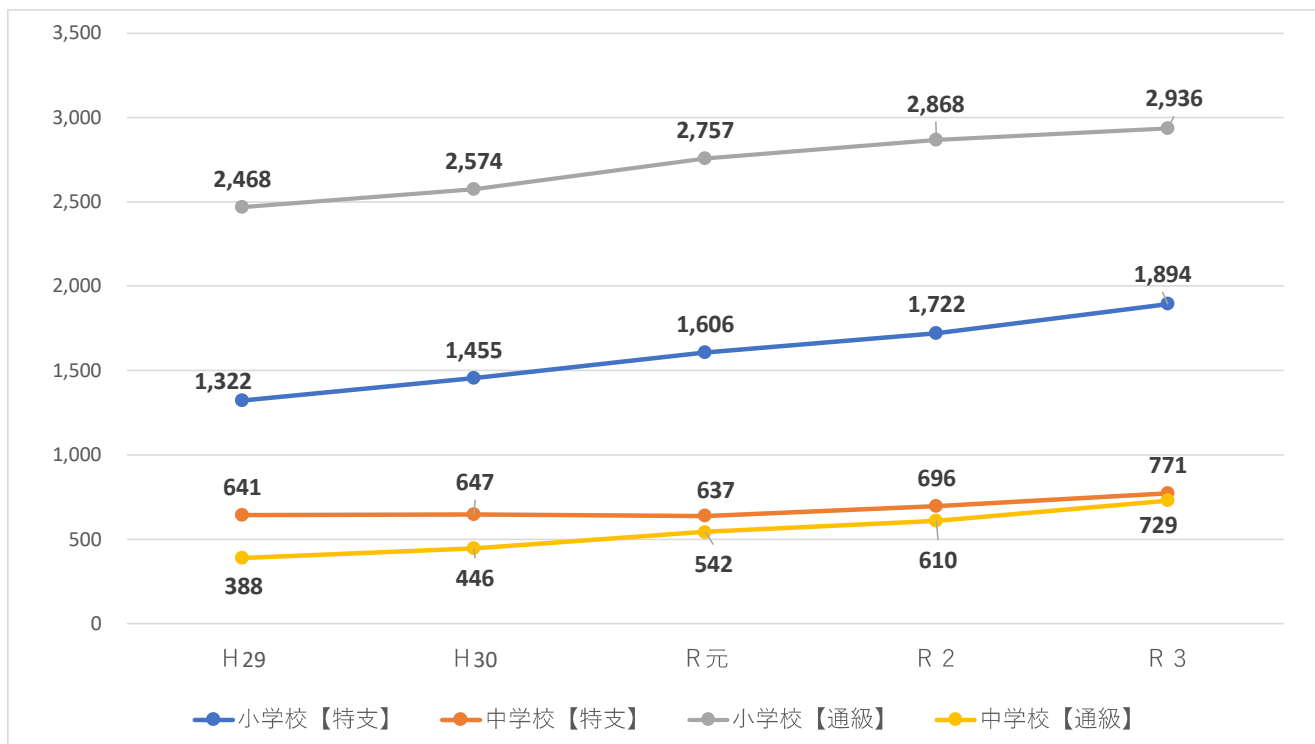
		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R4-H25	R4/H25
定時制	昼間定時制 フレックス校(清明・清新)	—	—	120	221	311	354	361	435	520	576	576	—
	フレックス校除く (北桑田(美山)・福知山(三和) ・宮津(伊根)・網野(間人))	215	181	187	188	201	206	183	148	117	82	▲ 133	38.1%
	夜間定時制 (朱雀・鳥羽・桃山・綾部東・東舞鶴(浮島))※	846	842	793	712	607	541	393	337	287	258	▲ 588	30.5%
計		1,061	1,023	1,100	1,121	1,119	1,101	937	920	924	916	▲ 145	86.3%
通信制 (朱雀・西舞鶴)		952	811	758	705	681	671	723	681	691	684	▲ 268	71.8%
合計		2,013	1,834	1,858	1,826	1,800	1,772	1,660	1,601	1,615	1,600	▲ 413	79.5%

※H30までは鴨沂を含む

各年度5月1日現在 (京都府教育委員会)

# 府内特別支援学級児童生徒数及び通級による指導の実施状況の推移

資料 4



単位：人

		H29	H30	R元	R2	R3	増減率 (H29-R3)	
特別支援 学級	小学校	1,322	1,455	1,606	1,722	1,894	143.3%	
	中学校	641	647	637	696	771	120.3%	
	義務教育 学校	1～6年	1	2	3	3	2	200.0%
		7～9年	6	3	2	1	2	33.3%
通級による 指導	小学校	2,468	2,574	2,757	2,868	2,936	119.0%	
	中学校	388	446	542	610	729	187.9%	

【出典】京都府教育委員会「京都府の特別支援教育」

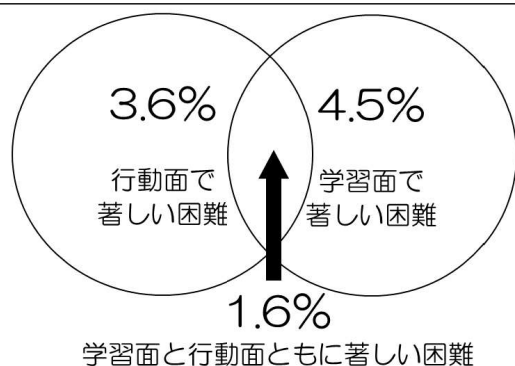
※グラフにおいては義務教育学校を省略

## ■ 「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する全国実態調査」【平成24年文部科学省調査】

(※学級担任を含む複数の教員により判断された回答に基づくものであり、医師の診断によるものではない。)

- ・調査時期：平成24年2月～3月
- ・調査対象：全国（岩手、宮城、福島を除く）の公立小・中学校の通常の学級に在籍する児童生徒を抽出（約5万4千人）

学習面または行動面で著しい困難を示す児童生徒＝6.5%在籍



学習面または行動面で著しい困難を示す児童生徒			
小学校		中学校	
小1	9.8%	中1	4.8%
小2	8.2%	中2	4.1%
小3	7.5%	中3	3.2%
小4	7.8%	中学校	4.0%
小5	6.7%		
小6	6.3%		
小学校	7.7%		

※令和4年1月～2月に全国の公立の小・中・高等学校を対象に調査が行われ、文部科学省において12月頃までに集計・分析の上、公表予定

## ■ (参考) 発達障害等困難のある生徒の中学校卒業後における進路に関する分析結果・推計【平成21年文部科学省】

(※学級担任を含む複数の教員により判断された回答に基づくものであり、医師の診断による発達障害のある生徒の割合を示したものではない。)

時期：平成21年3月

対象：平成20年度卒業の発達障害等困難のある中学校3年生の一部について、卒業後の進路を分析・推計（約1万7千人）

高等学校進学者全体に対する、発達障害等困難のある生徒の割合（推計値）＝約2.2%  
 （全日制：1.8%、定時制：14.1%、通信制：15.7%）

# 府内中学校特別支援学級卒業生の進路状況

資料 6

単位：人（％）

年度	進路先							合計
	進学		教育訓練機関等入学		就職者	その他		
	特別支援学校 高等部	高等学校	各種学校 専修学校	職業訓練校				
R 2	86 (39.1%)	128 (58.2%)	1 (0.5%)	0 (0.0%)	1 (0.5%)	4 (1.8%)	220	
R元	116 (47.5%)	123 (50.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (0.8%)	3 (1.2%)	244	
H30	112 (48.7%)	112 (48.7%)	1 (0.4%)	0 (0.0%)	1 (0.4%)	4 (1.7%)	230	
H29	88 (42.1%)	119 (56.9%)	2 (1.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	209	
H28	84 (45.7%)	92 (50.0%)	1 (0.5%)	0 (0.0%)	5 (2.7%)	2 (1.1%)	184	

【出典】 京都府教育委員会「京都府の特別支援教育」

## ◆課程

高等学校には**全日制**、**定時制**、**通信制**の課程を置くことができる。

- ・全日制：通常の時間帯において授業を行う課程
- ・定時制：夜間その他特別の時間又は時期において授業を行う課程
- ・通信制：通信による教育を行う課程

(学校教育法第53条、第54条)

## ◆修業年限

- ・全日制の課程：3年
- ・定時制の課程及び通信制の課程：3年以上

(学校教育法第56条)

## ◆卒業に必要な単位数・教育課程

- ①全学科共通：74単位以上で各学校が定める（1単位時間を50分とし、35単位時間の授業を1単位として計算することを標準とする）
- ②専門学科のみ：専門教科・科目から25単位以上

(学校教育法施行規則第84条及び第96条、高等学校学習指導要領)

【出典】文部科学省「第1回高等学校教育の在り方ワーキンググループ」資料（令和4年11月14日）

## 定時制・通信制課程の概要

### 1. 目的

- ・高等学校における定時制課程・通信制課程は、教育の機会均等の理念に基づき、勤労青少年に高等学校教育を受ける機会を広く与えるために、昭和23年に発足した。
- ・広域の通信制課程は、3以上の都道府県の生徒を対象としている通信制課程であり、昭和36年に制度化された。
- ・近年では、勤労青年が減少する一方、不登校・中退経験者、特別な支援を要する生徒、経済的な困難を抱える生徒など、多様な課題を抱えた生徒が多く所属。

### 2. 教育課程の特色

勤労青少年に高等学校教育を受ける機会を広く与えるため、技能連携による単位認定、定時制課程及び通信制課程の併修（定通併修）による単位認定が可能。

- ・技能連携・・・定時制・通信制課程の生徒が、都道府県教育委員会が指定する技能教育施設において教育を受けている場合、卒業に必要な単位数の2分の1以内で、施設における学習を高等学校における教科の一部の履修とみなすことができる制度。
- ・定通併修・・・定時制課程の生徒が、通信制課程において一部の科目の単位を修得したとき等は、その単位数を卒業に必要な単位数に加えることができる制度。

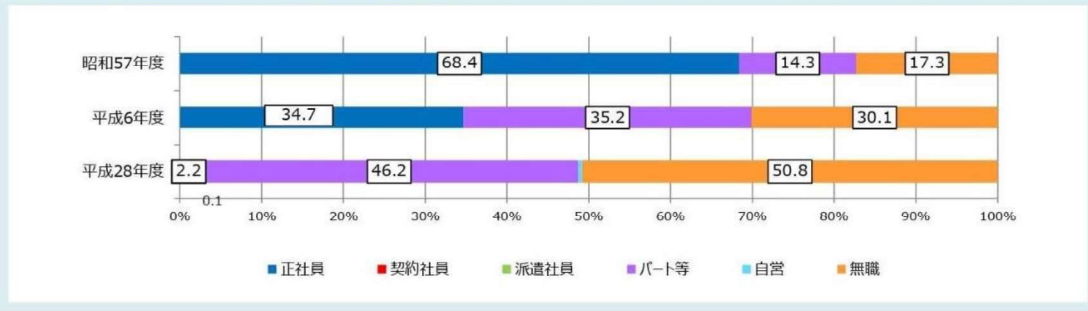
### 3. 通信制課程における教育方法

通信制高校における教育は、添削指導、面接指導（スクーリング）、試験により行うほか、これに加えて、インターネット等のメディアを活用した指導等の方法で行うことができる。（高等学校通信教育規程第2条）

- ・添削指導・・・生徒が提出するレポートを教師が添削し、生徒に返送して指導する。
- ・面接指導（スクーリング）・・・生徒が登校し、教師に直接接しながら指導を受ける。なお、テレビ放送・インターネット等を利用して学習した場合、面接指導時間の一部免除が認められている（高等学校学習指導要領第7款）。
- ・試験・・・添削指導、面接指導等の成果を測る。

【出典】文部科学省「定時制課程・通信制課程の現状について」（令和2年5月21日）

## 定時制高校に在籍する生徒の就業状況の変化



## 定時制高校に在籍する生徒の実態等

	定時制
小・中学校及び前籍校における不登校経験がある生徒	39.1%
外国とつながりがある（外国籍・日本語を母語としない）生徒	6.6%
ひとり親家庭の生徒	36.9%
非行経験（刑法犯罪等）を有する生徒	7.7%
特別な支援を必要とする生徒	20.1%
心療内科等に通院歴のある生徒	9.2%

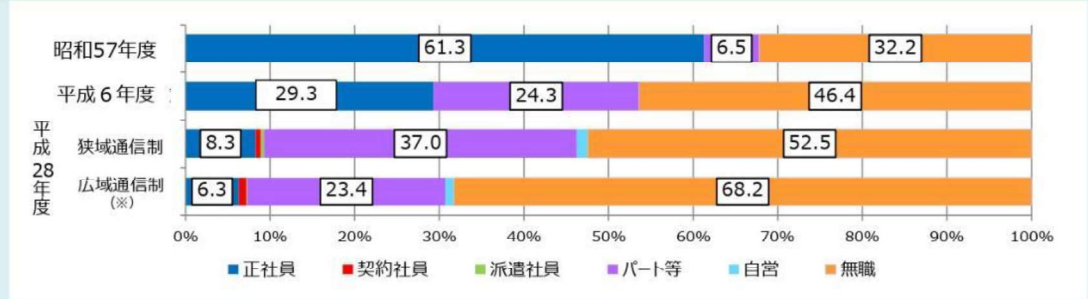
（出典）「定時制・通信制高等学校における教育の質の確保のための調査研究」報告書（平成29年度文部科学省委託事業）

【出典】文部科学省「定時制・通信制課程の現状について」資料（令和2年5月21日）

# 通信制高校に在籍する生徒の就業状況及び実態等

○ 通信制高校の在籍生徒に占める就業者の割合が減少する一方で、小・中学校及び前籍校において不登校経験を有する生徒の割合が最も多く、生徒の実態が変容している状況にある。

## 通信制高校に在籍する生徒の就業状況の変化



## 通信制高校に在籍する生徒の実態等

	狭域通信制	広域通信制（※）
小・中学校及び前籍校における不登校経験がある生徒	48.9%	66.7%
外国とつながりがある（外国籍・日本語を母語としない）生徒	2.8%	2.4%
ひとり親家庭の生徒	26.9%	18.7%
非行経験（刑法犯罪等）を有する生徒	2.1%	4.1%
特別な支援を必要とする生徒	11.8%	3.0%
心療内科等に通院歴のある生徒	11.0%	4.8%

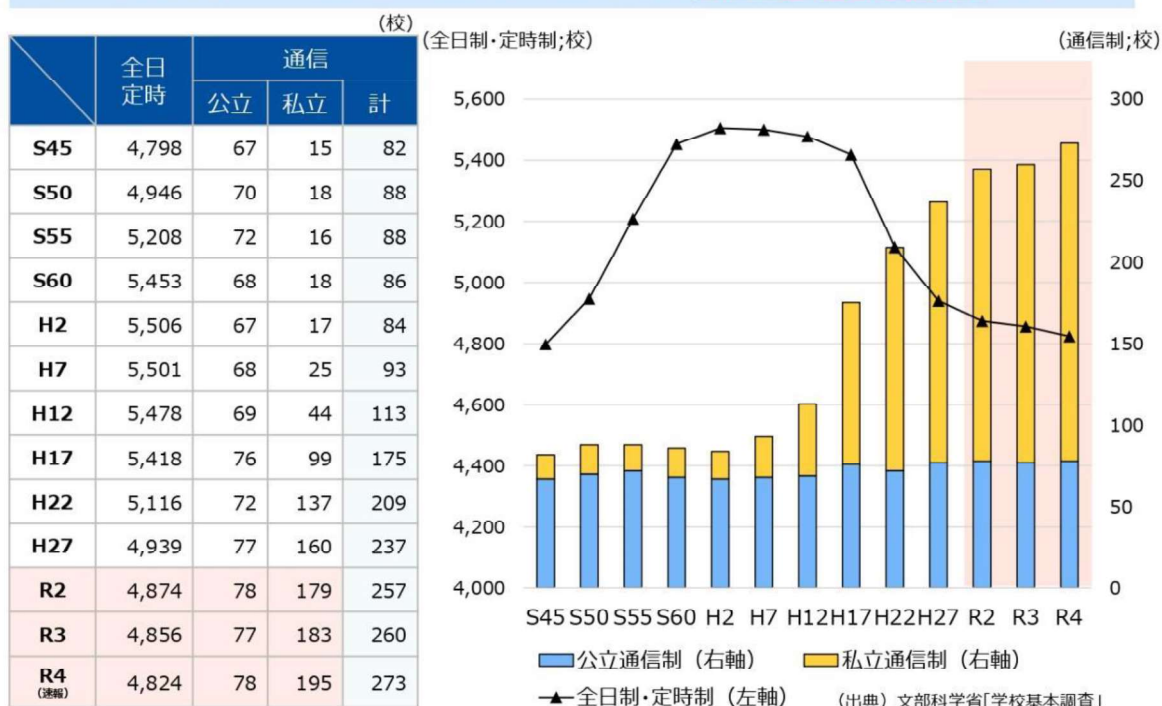
（出典）「定時制・通信制高等学校における教育の質の確保のための調査研究」報告書（平成29年度文部科学省委託事業）

【出典】文部科学省「第1回高等学校教育の在り方ワーキンググループ」資料（令和4年11月14日）



## 通信制高等学校の学校数（公私別推移）

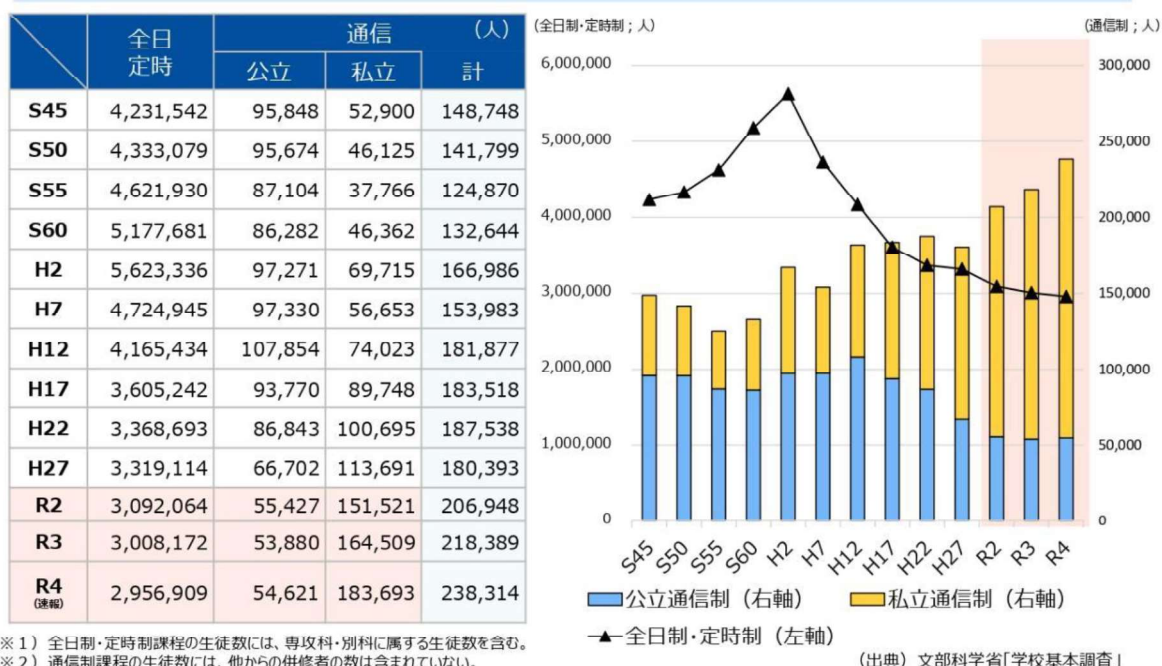
- 高等学校の学校数の推移について、近年、全日制・定時制課程を置く高等学校の校数は全体として減少傾向にあるが、**通信制課程を置く高等学校の校数は全体として増加傾向**にある。
- 公私別で見れば、公立通信制の校数はわずかに増加している一方で、**私立通信制の校数は大きく増加**している。



【出典】文部科学省「第1回高等学校教育の在り方ワーキンググループ」資料（令和4年11月14日）

## 通信制高等学校の生徒数（公私別推移）

- 高等学校の生徒数の推移について、近年、全日制・定時制課程の生徒数は全体として減少傾向にあるが、**通信制課程の生徒数は全体として増加傾向**にある。
- 公私別で見れば、**私立通信制の生徒数が大きく増加**している一方で、**公立通信制の生徒数は徐々に減少**している。（平成12年からの約20年間で、**私立の生徒数は約2.5倍に増加**している一方で、**公立の生徒は半減**）



(※1) 全日制・定時制課程の生徒数には、専攻科・別科に属する生徒数を含む。  
(※2) 通信制課程の生徒数には、他からの併修者の数は含まれていない。

【出典】文部科学省「第1回高等学校教育の在り方ワーキンググループ」資料（令和4年11月14日）

## 単位修得にあたっての全日制・定時制と通信制の違い

### 1単位を修得するに必要となる学習

#### (1) 全日制・定時制の場合

- ・ 1単位時間を50分とし、35単位時間の授業を1単位として計算  
⇒ 50分×35単位時間の学習量が必要

#### (2) 通信制の場合(国語、地理歴史、公民及び数学の場合)

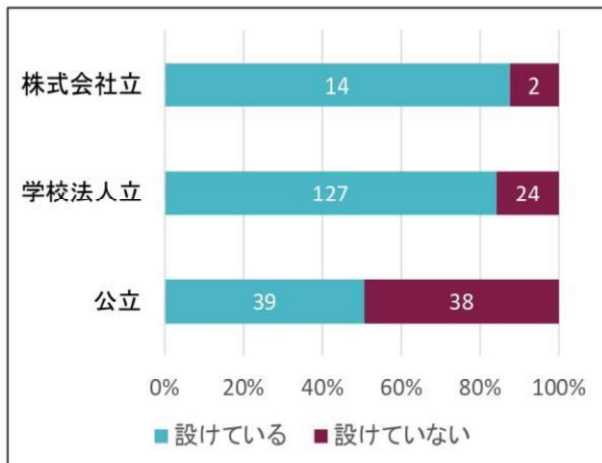
- ・ 自学自習  
+  
添削指導(3回)  
+  
面接指導(1単位時間(50分))  
+  
多様なメディアを利用した指導 ※面接指導時間の減免が可能  
⇒ 法令上の学習量の定めは、添削指導(3回)と面接指導(50分)であり、基本は自学自習により学習を実施

【出典】文部科学省「第1回高等学校教育の在り方ワーキンググループ」資料(令和4年11月14日)

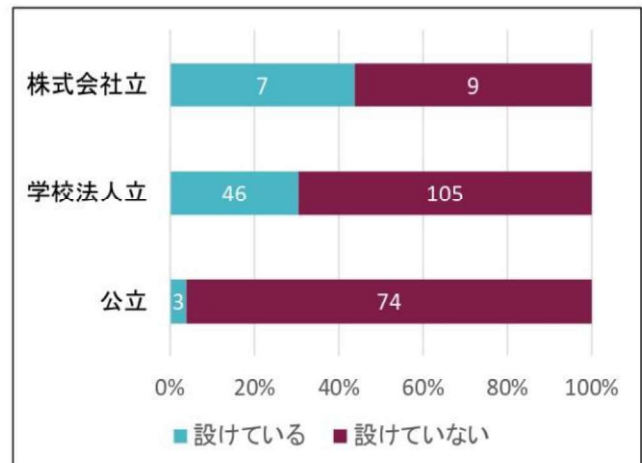
## 「通学コース」の設置状況

- 通信制高等学校における正規の教育課程は、①添削指導、②面接指導(スクーリング)、③試験で構成されており、このほかに④多様なメディアを利用した指導を実施した場合は、面接指導の一部の免除が認められている。
- 一方、通信制高校では、日常的に学校等に通学して学ぶ生徒も増えており、いわゆる「通学コース」を設ける学校が多く存在。生徒は日常的に学校等に通学し、学習活動の支援や生活面での支援等を受けている。
- 通信制高等学校のいわゆる「通学コース」(週1日以上通学して学習するコース)については、大きく、①「自校通学コース」(主として当該高等学校の校舎又は設置者が設置する施設において、高等学校の教職員が中心に指導を行うもの)と、②「提携通学コース」(提携する教育施設(いわゆるサポート校)が運営する通学コースであって、当該高等学校のホームページやパンフレット等において生徒が利用可能な通学コースとして紹介され、当該高等学校との連携の下に提供されるもの)に分類。

### ①自校通学コースの設置状況(平成29年度時点)



### ②提携通学コースの設置状況(平成29年度時点)



(出典) 高等学校通信教育に関する調査結果(平成29年7月 文部科学省初等中等教育局)

【出典】文部科学省「第1回高等学校教育の在り方ワーキンググループ」資料(令和4年11月14日)

# (参考) 高等学校通信制課程の概要比較(府立・私立)

資料 11

	府立高校(公立)		私立高校	
学校	朱雀高校 (全日制・定時制・通信制併置)	西舞鶴高校 (全日制・通信制併置)	狭域通信制高校の例	広域通信制高校の例
学科	普通科	普通科	普通科	普通科
本校所在地	京都市上京区 (二条駅から徒歩7分)	舞鶴市 (西舞鶴駅から徒歩5分)	京都市内	他府県
募集・出願資格	京都府在住又は京都府に勤務	京都府在住又は京都府に勤務	京都府在住	全国
面接指導(スクーリング)	週2回月曜・水曜の夜間 月1～2回日曜の昼間 ※年4回協力校での巡回スクーリングがある	週1回日曜の昼間 (月1回は土曜の昼間)	4スタイルから選択 ①週2～3回平日 決まった曜日・時間割 ②週1～3回平日 選んで参加 ③週1回土曜日 ④年間で数日(夏季冬季集中)	○1・3年次(年間) 全国拠点会場にて7～8日 ○2年次(年間) 全国拠点会場にて4～5日 本校にて4～5日 ※近畿エリアの全国拠点会場は大阪府内
試験(テスト)	年間通じて試験日を設定 (レポートを規程の回数提出し合格すると受験資格が得られる)	各学期末 (各学期ごとにレポートを規程の回数提出し合格すると受験できる)	前期・後期の2回	期末(原則年1回) 全国各地の会場で受験
授業料(1単位あたり)	175円	175円	8500円	7200円 (特別授業が受けられる課程は12000円)

「レポート」……添削指導における提出課題

『高等学校通信教育規程』(文部科学省令第三十三号) 抜粋

第二条 高等学校の通信制の課程で行う教育(以下「通信教育」という。)は、添削指導、面接指導及び試験の方法により行うものとする。  
2 通信教育においては、前項に掲げる方法のほか、放送その他の多様なメディアを利用した指導等の方法を加えて行うことができる。

## エンカレッジスクールとは

**エンカレッジ**とは  
**カブける 励ます 勇気づける**

○小・中学校で、十分に能力を発揮できなかった生徒のやる気を育て、頑張りを励まし、応援しながら、勉強や学校行事・部活動などを通して学校生活を充実させる全日制の高校です。

## 東京都のエンカレッジスクール



各学校が創意工夫して、特色ある学校づくりを進めています。

## エンカレッジスクールの主な特色

学校の特徴	◎二人の担任できめ細かな指導 ◎試験の点数よりも努力を評価 ◎学力検査によらない入試
授業の特徴	◎1年次には、集中できる30分授業により、基礎・基本を徹底 ◎少人数制・習熟度別授業によるきめ細かく分かる授業
時間割の特徴	◎多彩な体験学習 ◎選択授業 ◎キャリアガイダンス

全日制・学年制

(東京都教育委員会ホームページ掲載内容より)

【新しい教育システムへの挑戦】

「こんな学校はイヤだ！」 あなたの声に本気で応える学校です！

- 声① 「わかってないのに、どんどん進むからついていかねん！」  
⇒勉強は、わかることからスタートして、わかりやすい工夫がされているので大丈夫！  
・・・オリジナル教材や映像教材で、つまずいたところから徹底的にやり直し、弱点を強みに変える授業を行います。
- 声② 「先生がしゃべるばかりで、黒板写すだけやからおもしろくない！」  
⇒社会への疑問についてみんなで意見を出し合うような授業だから、ためになる！  
・・・自主性を育み、社会で活躍するために必要な力(社会人基礎力)を身に付けます。
- 声③ 「学校へ行く意味わかれん！」  
⇒体験・実習をはじめ就職や進学にも対応した授業で、君の夢を実現します。  
・・・進路に応じた選択科目で、一人ひとりの持っている「力」を最大限に引き出します。

【求める生徒像】

○しっかりとした学力と社会でがんばる力を身に付けるために、エンパワメントスクールで学びたいと思っている生徒

【エンパワメントスクールで育む力】

- 社会人として必要な「基礎学力」「考える力」「生き抜く力」をすべての生徒に身につけます。
  - ・基礎学力・・・必要な読み書き計算をはじめとした各教科における基礎基本の学力  
(スモールステップで勉強すれば、進学だって大丈夫！)
  - ・考える力・・・自尊感情を高め、自分の意見や考えを持つとともに、異なる意見も尊重しながら課題解決していく力  
(将来仕事するうえで、人の気持ちがわかることが一番大事！)
  - ・生き抜く力・・・世の中のしくみや仕事への理解を深め、進路を選択し、社会参画する力  
(自分で自分の限界を決めていないか？)

【教育課程等】

■教育課程の編成方針

- つまずいたところを徹底的に学ぶために、5教科の授業は1年次生では「教科書にとらわれない基礎科目」を実施し、必修科目や選択科目は、2年次生以降を中心に実施します。
- 一人ひとりの進路希望に応じた学習を進めるために、5教科では、習熟度別・進路希望別の授業を実施するとともに、総合学科のシステムにより進路に応じた「選択科目」の授業を行います。
- 社会人基礎力を身に付けるために、「産業社会と人間」「総合学習」「選択科目の一部」を「エンパワメントタイム」と位置付け、3学年を通じて「正解が1つでない問題」について考える授業を実施します。
- 学習のリズムを確立し、基礎学力や幅広い思考力を身に付けるために、1年次生では、3教科(国数英)は30分授業で実施するとともに、毎日の10分学習の時間を設定します。

■教育課程のイメージ

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
1年次	30分授業の国語(習熟度別)			30分授業の数学(習熟度別)			30分授業の英語(習熟度別)			理科・社会(学校設定科目)					実技科目(体育・芸術・家庭・情報など)					エンパワメントタイム		10分学習								
2年次	国語・数学・英語(習熟度別選択)						理科・社会(必修修科目)					実技科目		選択科目			エンパワメントタイム		上 昇 機											
3年次	国語・数学・英語(進路別選択)						理科・社会(必修修・進路別選択)					実技科目		選択科目			エンパワメントタイム													

\*単位数や必修科目の開講学年は、学校ごとに若干異なります。

■30分授業や習熟度別で「つまずいたところを学び直す」授業

- 1年次生では、国数英の3教科は1・2時間目の時間帯に30分×3の授業として実施し、毎日継続して学習することにより、効率的に学力向上を図ります。
- 国数英の3教科の授業は、3学年を通じて、習熟度別・進路希望別で行います。
- 一人ひとりに応じた学習を進め、得意科目はさらに伸ばし、苦手科目は着実に弱点を克服することで、大学進学にも対応します。(国公立大学もめざせるカリキュラムです。)

■映像の活用やドリル教材を活用した「勉強って面白い」を体感する授業

- タブレットや電子黒板などを活用したわかりやすい授業を行います。その際、NHK高校講座など外部の映像も利用します。
- 細かくステップ分けしたドリル教材により、各自の学習のステップアップの状況を自覚できるようにして、学習意欲を高めていきます。

■グループ学習や参加体験学習で、忍耐力や互いを思いやる気持ちなど人間関係を育成

- 「社会で活躍するために必要な力」を身につけていくため、「自尊感情を高める」「コミュニケーション力をつける」「キャリア意識を身につける」「正解が一つでない課題に取り組む」ことをテーマにした学習を3年間を通じて行います。
- 「地域の方」や「企業関係者」などからの聞き取りや実習など、学校外の協力も得ながら、「ほんものに触れる授業」を実施します。

■進路に応じた学習内容と資格取得で、進学にも就職にも対応した授業

- 各校の特色に応じた系列と選択科目を配置し、興味関心や進路希望に応じた学習の機会を提供します。
- 進学や資格取得をサポートするため、大学受験に対応した科目や資格取得に必要な専門的な科目を設置します。

■生徒一人ひとりの安全・安心が第一！ 生徒が相談しやすい環境と体制を整備

- イジメ、問題行動を絶対に許しません。中学校や家庭、関係機関との連携を密に行い、生徒一人ひとりを多くのおとなが見守る体制を作ります。
- スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、進路支援コーディネーターなどのプロフェSSIONALを配置します。

【成果指標】

■進路決定率を全国平均以上にします。(H24年度 全日制高校 全国平均 94.4%)

- 5教科の学力の到達目標を達成します。
- 進路や学習への意欲、生活規律、自己肯定感などの指標における数値を高めます。

■学校教育自己診断における生徒の学校生活満足度を80%以上にします。

(H24年度 全日制高校 府内平均 75.0%)